

先日西日本各地を襲った集中豪雨では全国各地から多くの消防隊が救助に駆け付けました。彼らは緊急消防援助隊。平成7年の阪神大震災を契機に大災害の際に全国からの応援体制を円滑にするため創設された部隊です。平成30年4月現在で全国の725消防本部、5,978隊の登録があり、災害時には被災地の消防力だけでは対応が難しいと判断された場合に市町村長や都道府県知事、消防庁長官の要請によって出動し現地で部隊編成の上で災害活動に投入されます。

緊急消防援助隊を構成する部隊

◆都道府県大隊

災害の種類や状況に応じて出動できるように各都道府県の消防本部で編成される部隊です。以下の各部隊から構成されています。

- 都道府県大隊指揮隊
- 消火小隊
- 救助小隊
- 救急小隊
- 後方支援小隊
- 通信支援小隊
- 航空小隊
- 水上小隊
- 特殊災害小隊
- 特殊装備小隊

◆指揮支援隊

ヘリコプターなどで先行し被災地消防との指揮や連絡面の調整する役割を持つ部隊です。政令指定都市が登録をしています

◆統合機動部隊

東日本大震災を契機に誕生しました。指揮支援部隊、消火部隊、救助部隊、救急部隊、後方支援部隊の各隊から50名の隊員で構成されており、大規模災害発生時に被災地へ先遣出場します。

◆エネルギー・産業基盤災害即応部隊

愛称は「ドラゴンハイパー・コマンドユニット」。
こちら東日本大震災を契機に誕生した部隊で石油コンビナート火災や化学プラントなどエネルギー・産業基盤への災害対応力を強化させるために平成26年の市原市消防局と四日市市消防本部に創設されました。
平成30年までに12の地域へ配備が進められるほか、今後は無人消防ロボットの開発・研究なども進めていく予定です。



緊急消防援助隊用に47都道府県に1台ずつ在籍する支援車Ⅰ型。運転席より後ろは右側に1.5m拡幅でき、簡易キッチン（電子レンジ、ガス給湯器、冷蔵庫等）とシート兼用ベッドやシャワー室、給水・排水タンクの他発電機2基を備えた自己完結型の車両です。隊員の休憩、仮眠スペースとして使用する他カーゴコンテナ6基を搭載、または補助座席で16名分の座席を用意可能です。

